

指導と評価大学講座

—新教育課程における指導と評価—

期日 2022年 7月 25日(月)・26日(火)・27日(水) 会場 東京都千代田区 日本教育会館 一ツ橋ホール・3階

ねらい 新学習指導要領・新指導要録・特別な状況下の教育を学ぶ

教育の現場には指導と評価に関する課題が山積しています。「新学習指導要領」「新指導要録」において、「学力の三要素」「カリキュラム・マネジメント」「主体的・対話的で深い学び」が加わりました。そして本年は、新型コロナウイルス感染症の流行で、「流行下の教育（指導と評価）のあり方」「児童生徒の不安・不満・いじめなどの増加への対応」、さらに「流行終息後の教育のあり方」「教育の新動向への対応」も求められるでしょう。これまで扱ってきた平時の課題に、特別な状況下で新たに生じた課題を加えて、理論的・実践的に研修し、解決するために必要な教師力を習得することを目指します。

主催 一般社団法人 日本図書文化協会
一般財団法人 応用教育研究所
日本教育評価研究会

後援 文部科学省
東京都教育委員会
全国都道府県教育委員会連合会
全国連合小学校長会
全日本中学校長会
全国教育研究所連盟
NPO 日本教育カウンセラー協会

開催に関して 本講座に関する情報は変更の可能性がありますので、図書文化社 HP にて最新情報をご確認ください。新型コロナウイルス感染拡大防止および感染予防対策については裏面をご確認ください。

日時	テーマ	内容	講師
7月25日(月)	9:30 ~ 9:40	開講式	一般社団法人 日本図書文化協会理事長 前東京成徳大学学長 新井 邦二郎
	9:45 ~ 10:55	個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実	上智大学教授 奈須 正裕
	11:15 ~ 12:25	アフター GIGA に期待される学習指導	東北大学大学院教授 東京学芸大学大学院教授 堀田 龍也
	13:30 ~ 14:40	教育評価の基礎基本 —新学習指導要領と新指導要録	一般財団法人 応用教育研究所所長 文教大学学長 石田 恒好
	15:00 ~ 16:10	観点別学習状況の評価と評価基準をつくる際の基本的な考え方	一般社団法人 教育評価総合研究所代表理事 鈴木 秀幸
7月26日(火)	9:30 ~ 10:40	道徳教育でどんな力を育てるか	明治大学教授 諸富 祥彦
	11:00 ~ 12:10	これから求められる言語力とは—読書から考える	東京家政大学教授 平山 祐一郎
	13:30 ~ 14:40	「指導と評価の一体化」のための標準学力検査の活用	東北大学教授 宮本 友弘
15:00 ~ 16:10	チーム援助による子どものニーズに応じた特別支援教育	東京成徳大学教授 田村 節子	
7月27日(水)	9:30 ~ 10:40	安定度と活性度とを両立させた学級集団づくり	早稲田大学教授 河村 茂雄
	11:00 ~ 12:10	生徒指導上の諸課題と学校指導体制	国立教育政策研究所総括研究官 宮古 紀宏
	13:30 ~ 14:40	「主体的に学習に取り組む態度」の評価と育て方	筑波大学名誉教授 櫻井 茂男
	14:40 ~ 15:00	閉講式	一般財団法人 応用教育研究所所長 文教大学学長 石田 恒好

2022年3月現在

対象 小学校・中学校・高等学校の先生／教育委員会・教育研究所の指導主事・所員等

定員 350名 **申込締切** 2022年7月8日(金) 消印有効(当日会場での申込はお断りいたします。)

受講料 10,000円(資料代含む。希望者(全日受講が条件)には後日修了証を発送いたします。)

- 日本教育評価研究会会員・日本教育カウンセラー協会会員は 8,500円
- 本講座受講と日本教育評価研究会入会*との同時申し込みは計 13,900円
- 第63回までの指導と評価大学講座修了者は 9,000円

*講座開始 10日前までにキャンセルのご連絡をいただき所定の手続きが済んだ方には手数料 2,000円を差し引いた金額を返金いたします。



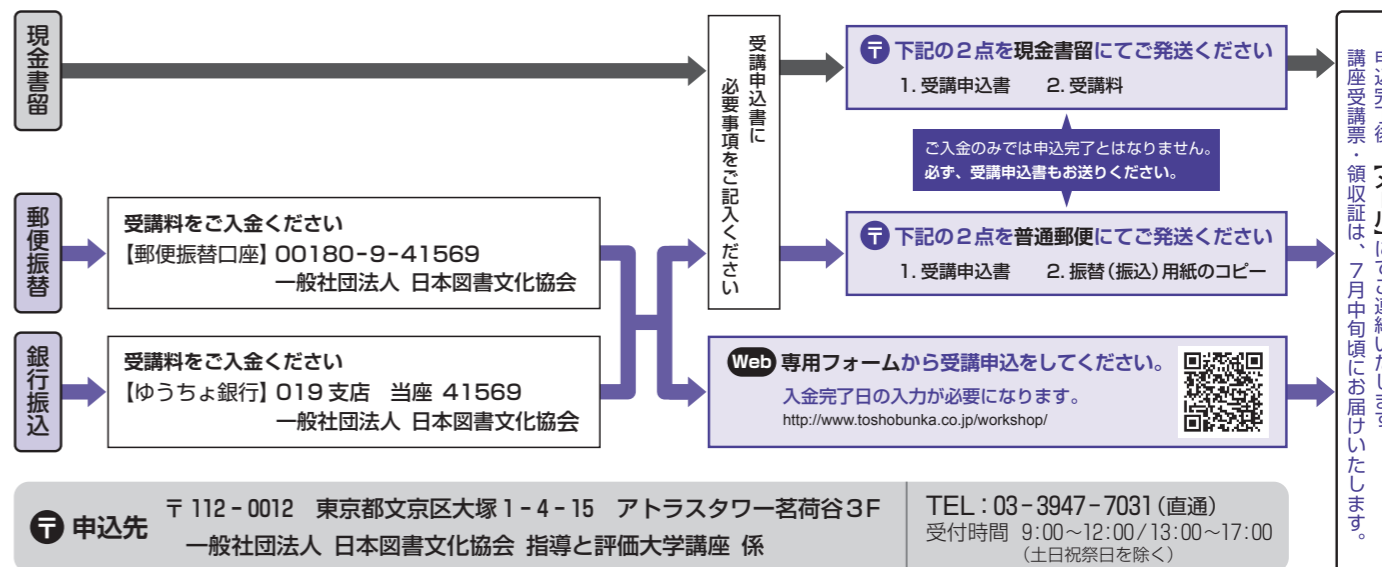
*年会費 5,400円分
機関誌「指導と評価」毎月送付

修了証について

全日受講者の中でご希望の方には、後日修了証を発送いたします。お申込みの段階で修了証の有無をお伺いいたします。「希望しない」を選択された方は、後日発行はいたしかねますのでご了承ください。なお、修了証は心理検査士および教育カウンセラーの資格取得時のポイントとなります。申請をお考えの方は、必ず申込時にお申し出ください。

●申込方法

以下のいずれかの方法で、それぞれの手順に沿ってお申し込みください。(郵送料、手数料はお客様のご負担となります。)



備考 ●講義資料は当日、会場にてお渡しします。●会場には駐車場はありませんので、公共の交通機関をご利用下さい。●講座中、大きなお手荷物をお預かりしています。●会場内での飲食はご遠慮いただいております。●当日の欠席・遅刻に関しまして、ご連絡は不要です。

*受講者名簿を後援団体に報告する場合があります。予めご了承ください。名簿記載を希望しない場合は申込書備考欄にその旨をご記入ください。

第64回(2022) 指導と評価大学講座 受講申込書			No. _____
フリガナ氏名	自宅住所 〒 _____ ☎ _____		
勤務先	勤務先所在地 〒 _____ ☎ _____	【備考欄】	
役職・担当	全日出席し、修了証の発行を <input type="checkbox"/> 希望する <input type="checkbox"/> 希望しない *後日発行はいたしかねます。必要な方は予めお申し出ください。		
日本教育評価研究会の <input type="checkbox"/> 会員 <input type="checkbox"/> 非会員 <input type="checkbox"/> 新規加入	メールアドレス _____ @ _____	*申込完了メールやお知らせなどをお送りしますので、随時確認ができるアドレスをお書きください。	
支払金額 一般 <input type="checkbox"/> 10,000円 研究会同時入会申込者 <input type="checkbox"/> 13,900円	<input type="checkbox"/> 8,500円 講座修了者 <input type="checkbox"/> 9,000円	支払方法 <input type="checkbox"/> 現金書留 <input type="checkbox"/> 郵便振替 <input type="checkbox"/> 銀行振込	

個人情報について 申込時にいただいた個人情報の利用目的は、(1) お申し込みいただいた講座受講・機関誌提供。(2) 上記に関するご案内・情報提供。(3) 教育に関するアンケートやモニター調査などの協力依頼。(4) その他教育事業に関する研究・企画開発への利用、に限ります。

新型コロナウイルス感染拡大防止および感染予防対策について

会場内での取り組み

- ・入場前に検温を実施いたします。検知結果に応じて、改めて体温測定をさせていただき、37.5℃以上もしくは、平熱より1℃以上の発熱が確認された場合は入場をお断りいたしますので、予めご了承ください。
- ・各箇所に手指消毒剤を常備いたします。
- ・会場内は随時換気を実施しております。
- ・会場内スタッフは毎朝検温を実施し、マスク等を着用いたします。
- ・座席数を会場収容人数の50%以下に制限させていただきます。

受講者のみなさまへご理解とご協力をお願い

【ご来場前に】

- ・体調不良（発熱、咳、呼吸困難、全身の倦怠感、のどの痛み、鼻水・鼻づまり、味覚・嗅覚の異常、関節痛・筋肉痛、下痢、吐き気・嘔吐の症状など）の場合は、ご参加をお控えいただきますようお願いいたします。

【入退場について】

- ・当日はマスクの着用をお願いいたします。
- ・受付時に、手指消毒剤や検温にご協力ください。検温の結果、37.5℃以上もしくは、平熱より1℃以上の発熱が確認された場合は入場をお断りいたしますので、予めご了承ください。
- ・入場列の混雑緩和のため、入場推奨時間を設定させていただきます後日ご案内いたします。
- ・お帰りの混雑を避けるため、お席の番号ごとに順次ご退場いただく場合がございます。多少お時間がかかる可能性がございますがご了承ください。

【会場でのご利用案内】

- ・受付時の接触を避けるため、専用ボックスにご自身で受講票の半券をお入れください。
- ・受講者様同士の間隔を十分に保てるよう、ご協力・ご配慮をお願いいたします。
- ・会場内での会話はできるだけお控えください。
- ・会場内および会場ロビーでのお食事はお控えください。
- ・座席は全席指定席とさせていただきます。受講者様ご自身でお席の選択は出来かねますのでご了承ください。
- ・講師への面会のご遠慮くださいますようお願いいたします。

※感染の疑いや発症者がでた場合、必要な情報を保健所等の公的機関へ提供する可能性がございます。

日本教育評価研究会認定 心理検査士

日本教育評価研究会では、心理検査の実践と活用に指導的役割を果たしていただける方々を、「心理検査士」として認定いたします（要申請）。詳しくは事務局にお問合せいただくか、Web サイトをご覧ください。

- 日本教育評価研究会心理検査士認定事務局 TEL: 03-3943-2515
- ご案内 URL <http://www.toshobunka.co.jp/workshop/examiner.php>



会場 日本教育会館 一ツ橋ホール・3階 東京都千代田区一ツ橋 2-6-2 TEL.03-3230-2833 (道案内専用)

- 都営新宿線・東京メトロ半蔵門線神保町駅 (A1 出口) 下車徒歩 3分
- 都営三田線神保町駅 (A1 出口) 下車徒歩 5分
- 東京メトロ東西線竹橋駅 (北の丸公園側出口) 下車徒歩 5分
- 東京メトロ東西線九段下駅 (6 番出口) 下車徒歩 7分
- JR水道橋駅 (西口出口) 下車徒歩 15分

先生のための 教育・心理検査相談室

講座開催期間中の休憩時間に教育・心理検査に関する相談室を開設いたします。

※開設方法等は講座当日お知らせいたします。新型コロナウイルス感染状況によって、開催を見送らせていただく場合がございます。

第64回 指導と評価大学講座 講師紹介

一般社団法人 日本図書文化協会理事長
前東京成徳大学学長

新井 邦二郎

7/25

開講式



東京教育大学大学院教育心理学専攻博士課程満期退学。教育学博士。筑波大学名誉教授。日本教育カウンセラー協会会長、日本スクールカウンセリング推進協議会副理事長。専門は発達心理学。

一般財団法人 応用教育研究所所長
文教大学学長

石田 恒好

7/25
7/27

教育評価の基礎基本

／閉講式

東京教育大学大学院教育心理学専攻博士課程満期退学。通信簿、指導要録を中心に、教育評価全般の研究を行っている。現在、専門用語、訳語の正確化による絶滅危惧種「教育評価」の回復運動を続行。



東京家政大学教授

平山 祐一郎

7/26

これから求められる言語力とは



筑波大学大学院博士課程心理学研究科修了。博士（心理学）。作文・読書・知能・学習指導の心理学を研究。新聞10紙の書評欄を読むことが趣味。そのため毎週土日の朝に近所のコンビニに出現中。

早稲田大学教授

河村 茂雄

7/27

安定度と活性度とを 両立させた学級集団づくり

筑波大学大学院教育研究科修了。博士（心理学）。教員、岩手大学助教授、都留文科大学大学院教授を経て現職。日本学級経営心理学会理事長。日本教育カウンセリング学会理事長。日本教育心理学会理事。



上智大学教授

奈須 正裕

7/25

個別最適な学びと 協働的な学びの一体的な充実



東京大学大学院教育心理学専攻修了。中央教育審議会教育課程部会委員。実験室から出発し、学校現場や行政の仕事を経て、再び理論の世界に回帰中。結局のところ、すべては同じ事の異なる現れ？

一般社団法人 教育評価総合研究所代表理事

鈴木 秀幸

7/25

観点別学習状況の評価と評価基準をつくる ときの基本的な考え方

評価基準の例や、ルーブリックの例を見たことはあるでしょうが、これらを作成する基本原理についての説明はほとんどされておりません。これについての説明は、わが国で初めてのことと思えます。



東北大学教授

宮本 友弘

7/26

「指導と評価の一体化」のための 標準学力検査の活用



東北大学大学院教育情報学教育部修了。博士（教育情報学）。子どもの学力の発達と規定要因について研究しています。また、東北大学入試センターで入学者選抜の研究と実務に取り組んでいます。

国立教育政策研究所総括研究官

宮古 紀宏

7/27

生徒指導上の諸課題と 学校指導体制

早稲田大学大学院教育学研究科博士課程満期退学。日米の生徒指導政策について研究している。日本生徒指導学会事務局長。アメリカ教育学会事務局長。



東北大学大学院教授
東京学芸大学大学院教授

堀田 龍也

7/25

アフター GIGA に 期待される学習指導



東京学芸大学教育学部卒、東京工業大学大学院社会理工学研究科修了。博士（工学）。中央教育審議会委員。小学校教員から教育の情報化に転身し、文部科学省の情報化関連会議の座長等を歴任。

明治大学教授

諸富 祥彦

7/26

道徳教育でどんな力を育てるか

「教師を支える会」代表として20年にわたり、悩む教師のカウンセリングを行っている。子どもに真に生きる力が育つような学校教育の在り方を長期的展望に立って考えている。



東京成徳大学教授

田村 節子

7/26

チーム援助による子どもの ニーズに応じた特別支援教育



筑波大学大学院教育研究科修了。博士（心理学）。公認心理師、学校心理士、上級教育カウンセラー、臨床心理士。専門は学校心理学。著書「石隈・田村式援助シートによるチーム援助入門」など。

筑波大学名誉教授

櫻井 茂男

7/27

「主体的に学習に取り組む態度」 の評価と育て方

筑波大学大学院博士課程心理学研究科修了（教育学博士）。子どもの学習意欲、とくに自ら学ぶ意欲の研究を行ってきました。共感や利他的行動といった思いやりに関する研究にも興味があります。1日に1回は外出、がモットー。

